

第5回疫学専門家認定筆記試験 実施要項（概要版）

1. スケジュール

申請期間：2025年8月1日（金）～9月26日（金）

書類審査：2025年10月7日（火）～12月11日（木）

筆記試験：2026年1月30日（金） 第36回学術総会閉会式終了後（時間が決まり次第公開します）

結果発表：2026年3月、ホームページ上に掲載予定

2. 試験会場

出島メッセ長崎（第36回学術総会と同じ施設内）

3. 受験資格

事前の書類審査により受験資格を得た者

受験資格の審査結果は電子メールにて通知予定

4. 試験内容

筆記試験（多肢選択形式）、出題数：50題、解答時間80分

5. 出題範囲

「はじめて学ぶやさしい疫学 改訂第4版」（日本疫学会標準テキスト、南江堂）を教科書として指定する。一部、テキストの範囲を超える問題も出題される。

6. 問題例

学習の参考として次ページ以降に10問のサンプル問題を公表する。なお、「2つ選べ」等の注意書きがない限り正解は1つとする。また、完全な正解がない場合でも、最も正解に近い選択肢を選ぶこととする。

【サンプル問題1】

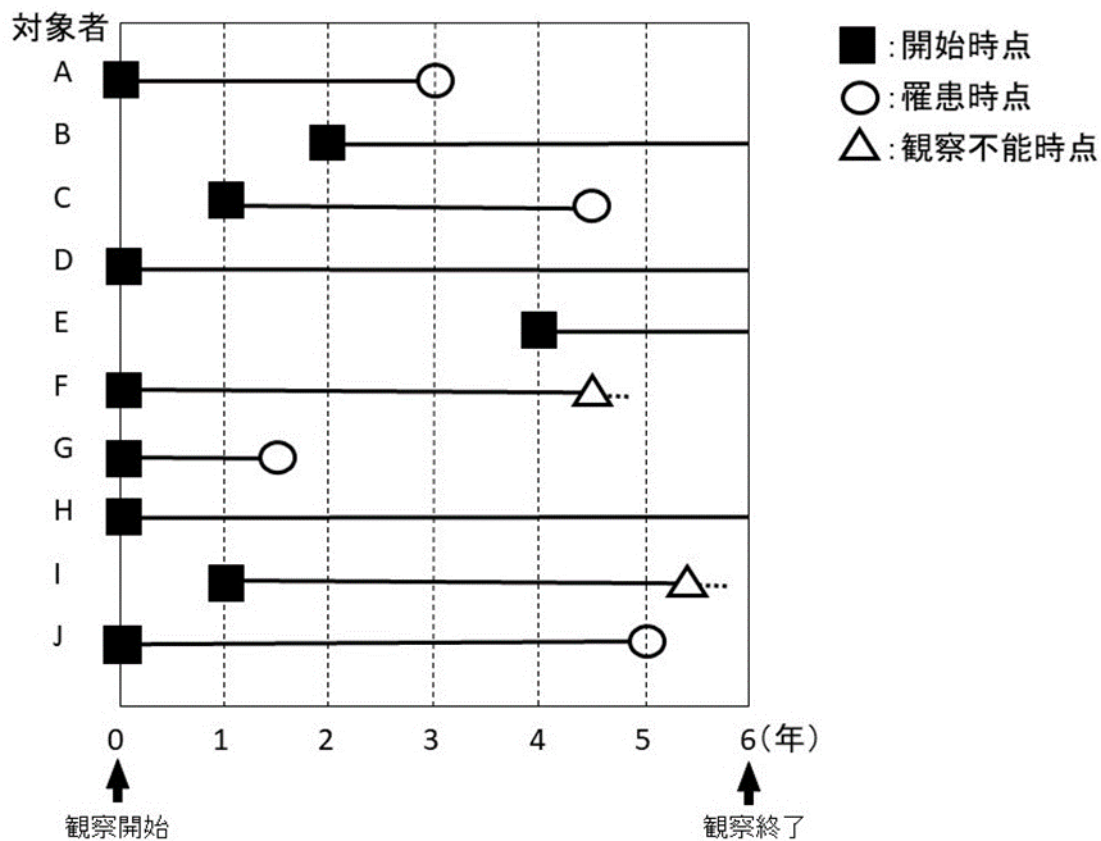
以下の記述で誤っているのはどれか。

- a. 交絡因子の制御法として「限定」がある。
- b. 層別解析は交絡因子を制御する方法の一つである。
- c. 統計的有意差検定により交絡の有無の判定ができる。
- d. 因果を検討する際には交絡因子の影響を取り除く必要がある。
- e. 中間媒介因子を調整項目に含めると因果関係を正しく評価できない。

【正解】 c

【サンプル問題2】

対象者 A～J を追跡観察した結果を示す。



罹患率はどれか。

- a. 0.1/年
- b. 0.2/年

- c. 0.4/年
- d. 0.5/年
- e. 0.6/年

【正解】 a

【サンプル問題3】

厚生労働省による人口動態統計に含まれる調査内容として誤っているのはどれか。

- a. 婚姻
- b. 死亡
- c. 出生
- d. 転居
- e. 離婚

【正解】 d

【サンプル問題4】

A 町での死亡率が県全体より高いかどうか調べるために、県を基準集団として A 町の年齢調整死亡率を直接法により求めた。(死亡率は人口 100 対)

年齢	A 町			基準集団		
	人口	死亡数	死亡率	人口	死亡数	死亡率
0～29 歳	100	1	1.0	2500	50	2.0
30～59 歳	100	3	3.0	1500	30	2.0
60 歳～	300	15	5.0	1000	50	5.0

正しいのはどれか。

- a. 2.4
- b. 2.8
- c. 3.2
- d. 3.4
- e. 3.6

【正解】 a

【サンプル問題5】

妊娠の計画性に関する質問を開発する。調査は子供を持つ女性を対象に行った。計画外妊娠の経験の有無と計画外妊娠の経験回数について、対象者 56 人に 2 週間の間隔を空けて同じ質問をしたところ、以下の結果が得られた。

	一致度	2 回の調査の差の平均値	相関係数
計画外妊娠の有無	0.75	－	－
計画外妊娠の回数	－	-0.3	0.86

正しいのはどれか。2 つ選べ。

- a. 2 回の調査間隔は短いほど良い。
- b. 相関は Spearman の相関係数を用いた。
- c. 一致度の検定には、カッパ係数を用いた。
- d. 差の平均値が小さいため、開発した質問の感度は低い。
- e. 相関係数が高いため、開発した質問の妥当性は高い。

【正解】 bc

【サンプル問題6】

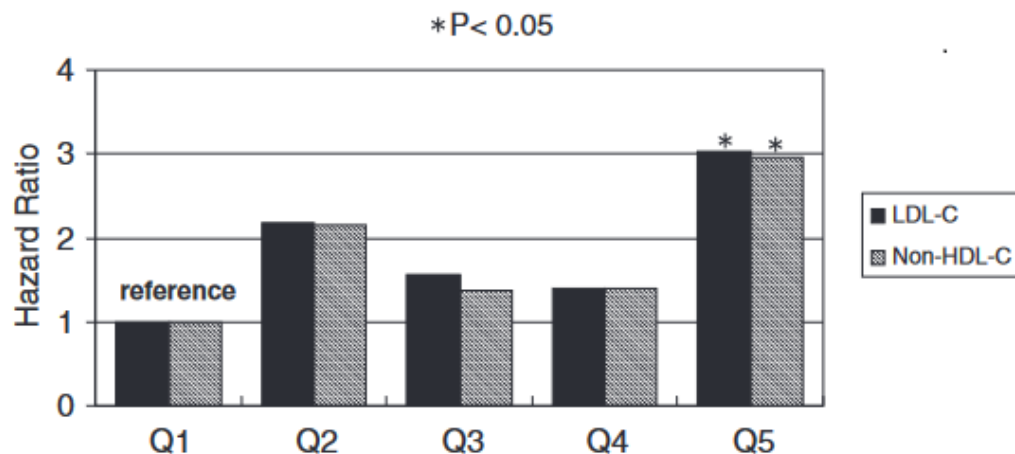
小児の気管支喘息の有無について、地域の小学校で 1 年生約 1000 人を対象に疫学調査を実施する予定である。調査方法で最も適切なものはどれか。

- a. 学校の養護教諭が、実際に児の診察を行って判断する。
- b. 学校健診時に、対象児本人に症状があるかどうか聞き取り調査を行う。
- c. 学校健診時に、校長の了解を得て採血を行い、IgE 抗体価などを調べる。
- d. 保護者に、国際的に妥当とされている喘息に関するアンケート調査を実施する。
- e. 保護者に、児のアレルギー疾患での受診の有無についてアンケート調査を実施する。

【正解】 d

【サンプル問題7】

LDL コレステロール(LDL-C)、non HDL コレステロール (Non-HDL-C) の 5 分位と心筋梗塞発症との関連を示した次の図に関する記述のうち正しいのはどれか。



図：LDL-C と non-HDL-C と心筋梗塞発症調整ハザード比

- ・調整因子：性、年齢、BMI、高血圧、糖尿病、HDL コレステロール、喫煙、飲酒
- ・各分位のカットオフ値（単位：mg/dL）

		Q1	Q2	Q3	Q4	Q5
男性	LDL-C	<98	98-117	118-132	133-150	≥151
	Non-HDL-C	<123	124-142	143-159	160-179	≥180
女性	LDL-C	<106	106-124	125-141	142-163	≥164
	Non-HDL-C	<125	125-142	143-164	165-188	≥189

出典：doi:10.2188/jea.JE20100060

- Non-HDL-C は喫煙よりも心筋梗塞のリスクを高める。
- LDL-C と心筋梗塞発症との関連には直線的な関連がある。
- Non-HDL-C の Q1 群と Q5 群とでは女性の割合は同等である。
- LDL-C が 140 mg/dL を超えると心筋梗塞のリスクは上昇する。
- 心筋梗塞のリスク評価には Non-HDL-C よりも LDL-C が優れている。

【正解】 c

【サンプル問題8】

診療所の現場で内服治療中の糖尿病患者を対象とした新しい Web システムによる生活習慣介入のランダム化比較試験を行う研究計画の相談を受けた。そこに記載されていた内容のうち、変更すべき優先度が最も高い点はどれか。

- 介入群か否かはブラインドしない。
- 封筒法による無作為割り付けを行う。

- c. 協力的でない患者にも研究参加を呼びかける。
- d. 内服薬を中止するウォッシュアウト期間を設ける。
- e. 研究参加期間中の食事をスマートフォンで撮影する。

【正解】 d

【サンプル問題9】

以下の質問文の中で、調査票を作成するときに簡潔でわかりやすいものを2つ選べ。

- a. 「眩暈がありますか」
- b. 「今朝は、朝食を食べましたか」
- c. 「昼食を食べないことはありませんか」
- d. 「健康のために、定期的に運動していますか」
- e. 「あなたは、1週間に6日間以上ワインを飲みますか」

【正解】 b e

【サンプル問題10】

ある年のがん検診で発見された肺がん患者 1000 人の喫煙経験率（喫煙者と過去の習慣的喫煙者の合計の割合）は 40%であった。同じがん検診で肺がんが発見されなかった受診者から性・年齢をマッチさせて抽出した 1000 人の受診者における喫煙経験率は 10%であった。オッズ比が相対危険に十分に近似している場合、肺がんに対する喫煙経験の寄与危険割合の推定値はどれか。

- a. 0.33
- b. 0.50
- c. 0.75
- d. 0.83
- e. 6.0

【正解】 d